

学区探訪

二・十四
郷土資料の
七十一号

矢作川の舟渡し

矢作川に橋のなかった時代、対岸の村との往来は渡船にたよらざるを得ませんでした。したがって、ところどころに渡船場が設けられていました。大門学区においても二か所渡船場がありました。一つは上里の渡し、もう一つは大門の渡しです。

八帖から日名を通り上里へ通じる道は畝部街道と呼ばれ、渡し舟によって対岸の宗定村へ行くことができました。この上里と

宗定（現在の豊田市畝部町宗定）とを結ぶ渡船場は大正時代に天神橋ができるとなくなりしました。現在、上里公民館にある辻の地蔵の正面に「左 ころもへのふなわたし」と刻まれています。摩滅してほとんど読むことができないのですが、天保二年の銘があるそうです。この辻の地蔵は今の上里二丁目にあり、道しるべの役割を果たしていました。この刻字からすると、畝部街道や上里―宗定の渡し舟は、挙母との往来に多く使われていたのでしょう。上里の渡船場については学区探訪四号にも書きました。

学区探訪

一・十五
郷土資料の
七十二号

続・矢作川の舟渡し

大門学区には二つの渡船場がありました。上里と大門です。しかし上里―宗定を結ぶ渡し舟は「むねさだわたし」と呼ばれ、宗定村の人が船頭を勤めましたから、上里の人は船頭をやらなくてもよかったです。これに対して大門―北野を結ぶ渡し舟は、「だいもんわたし」と呼ばれ、大門の人が船頭をしなくてはなりませんでした。三か月に一度くらい木札が順番にまわってくる

ようになっていました。農繁期などにまわってくると人手さがしに苦労したそうです。大樹寺の天満宮の境内にお地蔵さまが置かれており、その左右に「右 むねさだわたし」「左 だいもんわたし」と道しるべが刻みこまれています。この宗定渡しや大門渡しは一岸出舟の人渡し、といい一方の村が船頭を出すことになっていました。つまり上里―宗定の渡船場は宗定村が舟を出す役を負い、大門―北野の渡船場では大門村が舟を出す役を負っていたのです。この大門の渡船場も日名橋完成でなくなりました。

学区探訪

二・十六
郷土探訪の
七十三号

矢作川にかかるとなる橋

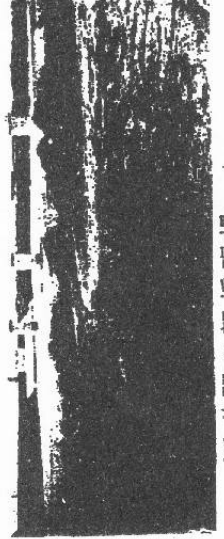
昔は矢作川を渡るには渡し舟を利用しました。しかし、矢作川に橋がかかると渡し舟はなくなりました。

先ず大正十三年に天神橋がかかると、上里一宗定の渡し舟がなくなりました。今の天神橋は昭和五十五年の開通したりつばな橋ですが当時は木造の橋でした。

次に昭和十六年に日名橋が開通して、大門一北野の渡し舟が消えてしまいました。

今の日名橋は昭和三十九年に開通したものです。当時のものは木造土橋で桁橋でした。長さ三七四メートル、総幅五・八メートル、工事費は当時の金額で十五万円でした。

現在、天神橋も日名橋も交通量が多くて限界の状態です。そこで新しい橋の建設が下大門で進められています。



下大門の架橋現場

学区探訪

二・十八
郷土探訪の
七十五号

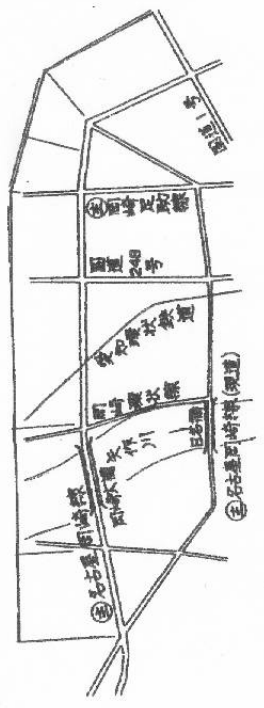
県道名古屋岡崎線

平針街道は朝夕の通勤時になりますと、たいへん混雑をし日名橋を容易に渡ることができません。そこで新しく名古屋一岡崎を結ぶ都市計画道路の建設が愛知県で決定されました。この県道名古屋岡崎線は平針街道のバイパスとして期待されています。

この名古屋一岡崎を結ぶ新しい幹線は、今までの平針街道のように岡崎の中心を通らず、岡崎の北東部から国道一号線や東名高

速道路の岡崎インターへとつながりますので、岡崎市街地の交通渋滞を避けることができます。

県道名古屋岡崎線は大門学区を東西に横切って、下大門で矢作川を渡ります。その橋が岡崎大橋です。岡崎大橋には岡崎市や大門学区の期待が集まっていますが、騒音などの公害を心配する声も地元にはあります。



学区探訪

二・十七
郷土探訪の
七十四号

岡崎大橋

今、下大門で架橋工事がおこなわれています。この橋が、岡崎大橋です。大正十三年に天神橋、昭和十六年に日名橋ができ渡し船がなくなりました。しかし、今この二つの橋は朝の通勤時などもう限界の状態です。たくさんの自動車が渋滞し橋を渡ることができません。そこで、下大門―北野を結ぶ新しい橋ができることになりました。この岡崎大橋はその名が示すように岡崎市

を代表する立派な橋になります。橋梁構造は八一四・一メートル、盛り土から盛り土まで測ると全長一一五三メートルもあり、岡崎最大の橋となります。そして愛知県下でもベスト十に入る大きな橋になります。費用は三九億円。平成四年に二車線が開通しその後の工事で四車線に拡張されます。この岡崎大橋によって矢作川を渡る県道名古屋岡崎線は、今の平針街道のバイパスとして岡崎そして大門の発展のために役立つことでしょう。しかし地元の人たちは騒音などの公害を心配しています。

学区探訪

二・十七
郷土探訪の
七十四号

岡崎大橋

今、下大門で架橋工事がおこなわれています。この橋が、岡崎大橋です。大正十三年に天神橋、昭和十六年に日名橋ができ渡し船がなくなりました。しかし、今この二つの橋は朝の通勤時などもう限界の状態です。たくさんの自動車が渋滞し橋を渡ることができません。そこで、下大門―北野を結ぶ新しい橋ができることになりました。この岡崎大橋はその名が示すように岡崎市

を代表する立派な橋になります。橋梁構造は八一四・一メートル、盛り土から盛り土まで測ると全長一一五三メートルもあり、岡崎最大の橋となります。そして愛知県下でもベスト十に入る大きな橋になります。費用は三九億円。平成四年に二車線が開通しその後の工事で四車線に拡張されます。この岡崎大橋によって矢作川を渡る県道名古屋岡崎線は、今の平針街道のバイパスとして岡崎そして大門の発展のために役立つことでしょう。しかし地元の人たちは騒音などの公害を心配しています。

学区探訪

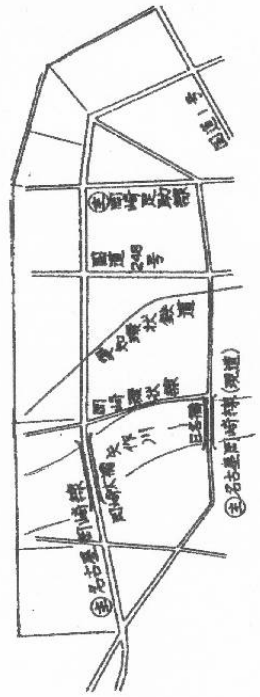
郷土探訪 二・十八
七十五号

県道名古屋岡崎線

平針街道は朝夕の通勤時になりますと、たいへん混雑をし日名橋を容易に渡ることができません。そこで新しく名古屋ー岡崎を結ぶ都市計画道路の建設が愛知県で決定されました。この県道名古屋岡崎線は平針街道のバイパスとして期待されています。この名古屋ー岡崎を結ぶ新しい幹線は、今までの平針街道のように岡崎の中心を通らず、岡崎の北東部から国道一号線や東名高

速道路の岡崎インターへとつながりますので、岡崎市街地の交通渋滞を避けることができます。

県道名古屋岡崎線は大門学区を東西に横切つて、下大門で矢作川を渡ります。その橋が岡崎大橋です。岡崎大橋には岡崎市や大門学区の期待が集まっていますが、騒音などの公害を心配する声も地元にはあります。



学区探訪

郷土探訪 二・二十
七十六号

学区の運送会社

『三鹿の渡し』という昔話が残されているように、大門学区には昔から矢作川の渡し船場があり交通の要地でした。特に奈良、平安時代、北野に薬師寺が栄えたころには北野の対岸にある大門は矢作川の「上の渡し」として繁栄しました。

そして今、大門学区は再び交通の要地として脚光をあびようとしています。区画整理により、道路が整備され自動車走りや

すくなりました。そして国道二四八号線が学区の東にあり、平針街道のバイパスとして県道名古屋岡崎線が学区を東西に横ぎることになりました。さらに岡崎大橋の建設も下大門で進められています。このように大門学区は交通の便がよく、田園地帯で広い土地も得やすいため、多くの運送会社が集まりました。私が確認しただけでも十三の運送会社が学区にありました。運送会社は駐車場など広い土地を必要としますし、もちろん交通の便がよくなくてはいけません。学区にはよい立地条件があるのです。

学区探訪

二・二十一
郷土探訪の
七十七号

統・学区の運送会社

ある運送会社でどうして大門学区に営業所を作ったのかきいてみました。その会社は十年ほど前に大門学区に移動してきました。それまでは国道一号線に近いところにあったのですが会社の発展により土地がせまくなり大門学区に進出しました。そのころは、家も少なく広い土地が得やすかったし、岡崎大橋ができることなども見越して大門へやってきました。それにここは安城

や豊田にも近くとてもよい立地条件をそなえていたのです。郊外で民家も少なく交通難や騒音公害の心配もありませんでした。運送業は速く安全に運ぶという時間との戦いですので、交通の便がよいということが絶対に必要なのです。

また大門学区には貸し倉庫や資材置場が多いことも目につきます。これもまた学区がよい立地条件をそなえているからでしょう。区画整理により農地にも宅地並み課税がかかり、節税対策として農家が貸し倉庫を多く作ったことも理由の一つでしょう。

学区探訪

二・二十二
郷土探訪の
七十八号

大門学区

年齢別人口

市役所統計課の資料によって作成しました。(昭和六十三年四月一日現在)

年齢	男	女	年齢	男	女
0	55	58	36	101	91
1	63	59	37	93	104
2	62	66	38	96	104
3	71	69	39	108	100
4	79	61	40	96	88
5	60	76	41	92	69
6	64	55	42	54	42
7	72	83	43	69	63
8	65	63	44	76	55
9	78	77	45	67	52
10	84	85	46	65	47
11	81	76	47	54	32
12	83	96	48	37	45
13	88	82	49	38	34
14	80	87	50	35	29
15	60	71	51	34	27
16	75	65	52	39	35
17	59	58	53	23	28

